

令和7年第17回教育委員会議事録

令和7年11月12日（水）

杉並区教育委員会

教育委員会議事録

日 時 令和7年11月12日（水）午後2時00分～午後3時29分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 渋谷 正宏 委員 對馬 初音

委員 伊井 希志子 委員 前田 小百合

委員 大川 康德

出席説明員 事務局次長 井上 純良 学校整備・支援担当部長 高山 靖

生涯学習担当部長 武井 浩司 庶務課長 近藤 高成

学校ICT担当課長 松下 征弘 教育人事・指導課長 松尾 了

教育人事・指導課
統括指導主事 柿添 剛広 学務課長 森 令子

特別支援教育課長
就学前教育
支援センター所長 有坂 直子 学校整備課長 安川 卓弘

学校整備担当課長 花岡 純子 学校支援課長 中曾根 聡

生涯学習推進課長 牛山 進一郎 済美教育センター所長 古林 香苗

済美教育センター
統括指導主事 清水 里恵 済美教育センター
統括指導主事 齊藤 敦

済美教育センター
指導主事 内田 広志 済美教育センター
教育相談担当課長 岡部 洋右

中央図書館長 出保 裕次

事務局職員 庶務係長 倉岡 直哉 法規担当係長 荒川 正良

担当書記 松尾 菜美子

傍聴者 2名

会議に付した事件

報告事項

- (1) 杉並第一小学校の基本設計について
- (2) 令和7年度体力等調査の結果について

教育委員提案議題

「教育DXについて」

目次

報告事項

- (1) 杉並第一小学校の基本設計について・・・・・・・・・・ 4
- (2) 令和7年度体力等調査の結果について・・・・・・・・・・ 12

教育委員提案議題

- 「教育DXについて」・・・・・・・・・・ 19

教育長 定刻になりましたので、ただいまから令和7年第17回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。

それでは、本日の会議について事務局より説明をお願いいたします。

庶務課長 本日の議事録の署名委員につきましては、教育長より事前に對馬委員とのご指名がございましたので、よろしくをお願いいたします。

本日の議事日程についてでございますが、報告事項2件と教育委員提案議題を予定しております。以上でございます。

教育長 それでは、本日の議事に入ります。事務局より説明をお願いいたします。

庶務課長 それでは、報告事項1番「杉並第一小学校の基本設計について」、学校整備課長からご説明いたします。

学校整備課長 杉並第一小学校の移転改築に当たりまして、これまで改築検討懇談会を立ち上げまして改築の基本計画を策定してまいりました。その後、公募型のプロポーザル方式で設計事業者を選定しまして設計を進めてまいりました。この度、懇談会との意見交換等を踏まえまして基本設計のまとめを行いましたので、その旨のご報告となります。

これまでの経過でございますが、昨年4月に改築検討懇談会を立ち上げまして基本計画の策定に取り組んでまいりました。また1年ぐらい前、昨年の秋にはプロポーザルでの選定、そして今年の1月から懇談会を再開いたしまして、計11回の懇談会を開催いたしまして校舎の配置、平面計画等を検討して今回、基本設計のまとめを行ったという流れになってございます。

基本設計のまとめの概要ですが、別紙の方にまとめの資料をつけてございます。おめくりいただきまして14ページ、タイトルで言いますと13番で、校舎配置案ごとの特徴比較というものがございます。そちらの方をご覧いただければと思います。今回、四つほど配置の計画を比較検討して、その結果一番左側のA案としているもので採用して設計を進めていきたいと考えてございます。

こちらにつきましては、左上が北側になりますが、南西側に校舎を配置しまして北東側に新しい校庭を配置するといった計画になってございます。ほかにも、逆側の、北側の校舎の案などですとか、あるいはL字型の校舎の案なども比較検討したところですが、最終的にはA案の配置で決定したということでございます。

A案の概要について1枚おめくりいただきまして、ページ数で言いますと15ページ、校舎配置検討案Aというものをご覧いただければと思います。

こちらの特徴としましては、まず南側を校舎にしまして北側を校庭にすることによりまして校庭面積を最終的には広く取れております。現在、一番狭い杉一小の校庭でございますが、今の面積の約1.5倍の2,700平米の確保ができてございます。

また、こちらは浸水の想定がある場所でもございまして、これまで心配のご意見も頂いていたところでもございますが、こちらの図面でいいますと右上の交差点のところに「±0」と書いておりますが、こちらが周辺で一番低いところになります。こちら側にグラウンドを配置しまして、対角線側の左下の昇降口の辺り、こちらが大体プラス2メートル上がっているところで、こちらに校舎を配置することで少なくとも校舎につきましては浸水の心配もないような高いところに校舎を配置したという設計になってございます。

また、昇降口の出たところにまちかど広場というところがあります。こちらはいわゆるピロティ、半屋外空間、上は2階3階と建物がありまして壁はないところになっております。杉一小につきましては阿佐谷ジャズストリートですとか、七夕ですとか様々なイベントがございまして、そういった時にも使えるような空間を是非というご意見を頂きましたので、このA案ではまちかど広場といった計画ができたといったものになっております。

それから、このグラウンドにつきましては、今回移転をするということで、やはり近隣の住宅街に近いところに新たに学校ができるということでご心配の声も頂いていたところでもございますので、校庭の舗装につきましては人工芝といったところも少し考えておりまして、今後設計の方で詰めていきたいと思っております。

何枚かおめくりいただきまして21ページに2階、3階の平面図が載っております。こちらを見ていただきますと、普通教室については校庭側、北東側を向いておりまして、その前にワークスペース、廊下のところにワークスペースと書いてありますが、こちらは単に廊下を共用部分として作るだけではなくて、教室の拡張空間として使うことで多様な教育形態にも対応できるようなスペースとして配置ができたといったと

ころも今回工夫したところとなっております。

それから、体育館につきましては、1階に学童クラブ等を入れた関係で2階になっておりますが、外階段を設ける、それからエレベーターとも近い関係にするなど使う方にも配慮した計画になってございます。

すみません、頭紙の方にお戻りいただきまして、2ページ目、今後の実施設計に向けてでございます。今後も学校関係者、保護者等の要望を可能な限り実施設計に反映していきたいと考えております。また、地盤調査につきましては、現在病院がまだ解体中ということでできていないところもございますので、そのあたりの結果を踏まえて今後基礎の構造等を進めていきたいと考えております。

今後のスケジュールでございますが、今月の下旬に住民説明会を予定しておりまして、来月には文教委員会への報告、来年の7月には実施設計も完了いたしまして、令和9年の年初から新校舎の建設工事に着工してまいりたいと考えております。

説明は以上です。

庶務課長 ただいまの説明につきましてご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

伊井委員 ご説明ありがとうございます。この杉一小学校に関しましてはこれまでの経過をいろいろ分かるところがありましたし、これまで子どもたちが待ちわびていたというか、地域の保護者の方々も本当に子どもたちの学校を待ちわびていたということを思いますと、ご検討されるに当たりましてたくさんのお声を聞いてきたという経緯もあると思いますけれども、一番に子どもたちの思いをとというあたりのことが、こちらにもアンケートを取ったりお話を聞く機会を取ったりして反映させていただいていると思うのですが、先ほどのご説明にあった幾つかの中で、未来ある子どもたちが活躍できる場所というのは、一番の重点項目としてはどんなところをお考えかなということの一つお伺いしたいなと思います。

学校整備課長 先ほど申し上げたように幾つかあるのですけれども、やはり一番ということでは、子どもたちのアンケートの中でも圧倒的に一番多かったのは、やはり広い校庭が欲しいといったことではございました。そういった意味では、A案につきましては広い校庭が確保できて、今よりかなり広くなるということの方がよかったのかなと思って

おります。

伊井委員 先ほどの説明ですと、校庭は微妙になだらかに傾斜している感じになるのですか。高さを変える感じにするのか、どんな感じになりますでしょうか。

学校整備課長 先ほどの資料の 14 ページのところ、グラウンドについてはもともと、ほかの学校もそうなのですけれども、水はけのために全く平坦ではないのですね。0.5%ぐらいの傾斜をつけています。こちらについては、校舎側を高くして、反対側、道路側の方になだらかに、片流れになるような形で多少の傾斜はつけております。

あと、校舎と校庭の間には階段の 3、4 段分ぐらいの段差を設けておりまして、校舎から何段か下がって校庭があると。校庭はなだらかにはなっておりますが基本的には平坦になっています。そんなイメージでございます。よろしく申し上げます。

伊井委員 子どもたちには影響がないという、そういう感じですね。

学校整備課長 おっしゃるとおりです。

伊井委員 すみません。杉並第一小学校といえ、放課後の居場所ということで大変長い歴史があるのですけれども、そのあたりの活動の場所は 1 階のどこになるのですか。学童も含めまして。今後学童とかも校舎に入る感じだと思うので。

学校整備課長 15 ページ、配置図をご覧くださいますと、オレンジ色のところで 1 階の調理室の北側といえますか。

伊井委員 育成室と書いてありますね。

学校整備課長 そうですね、育成室 1、2、3 と書いてあるこのオレンジ色のエリアが学童クラブ。今、阿佐谷学童クラブがこちらの方に改築に伴って移転をしてくるといったことになります。

それから、すぎっ子くらぶにつきましては、1 階に学校支援本部の部屋などもございまして、幾つか候補はあるのですが、3 階の多目的室というのがございます。図書館の隣です。こちらの方が普通の教室よりも少し広い部屋になっておりまして、こちらの活用などを考えているといったところになります。

伊井委員 今後の児童の推移とかを見ますと、普通教室は 15 学級ということで取っていらっしゃるのですけれども、校舎が新しくなった学校は爆発的に子どもが増えたりということがありまして、追加でちょっと建

物を建てたりということがありますけれども、幾つかある育成室という形で書いてあるものとかで、万が一増えた時に多少転用できるような融通性というものもご検討の上でこのアイデアを決めていただいている感じになりますか。

学校整備課長 クラス数につきましては現在 12 学級、1 学年 2 クラスずつといったことで当面も 12 学級程度を維持するかなと思っています。

まず普通教室については 3 クラスほど余裕を持って 15 用意しております、そこは学年で局所的に 3 クラスになる学年が出ても対応できるような形にしてございます。

また、少人数教室ですとか、ここでいう多目的室などは普通教室にも転用可能としておりますので、万が一 18 とかになっても教室自体は足りなくなるということはない設計をしている、そんなところでございます。

伊井委員 そうしますと少人数の教室とか、個別で子どもたちにいろいろな形で対応するのも、そういったところを十分に使ってやれる、例えば校内別室とか、クールダウンする場所とか、少人数の学びにつながるお部屋を確保したいという時は、そのようなお部屋も対応ができるということで考えてよろしいでしょうか。

学校整備課長 そうですね、その分の余裕は持って転用可能な形にはしてございます。

伊井委員 はい、分かりました。

最後に一つお伺いしたいのがプールのことなのですが、今のこの猛暑、今年も大変猛暑だったんですが、そんな中で屋外、特に屋上にあるプールはなかなか水温等が上がってしましまして、プールの授業ができないということもあったのですが、今回はそのあたりのことも考慮したプールの形になるのでしょうか。

学校整備課長 現在のところ、暑さで中止になるというケースは昔に比べて出てきていることは承知をしてございますが、屋外のプールでも必要な時数が確保できていないということはないと、そこは調査でも把握はしてございます。ただ、委員がおっしゃられたように、暑さ対策は必要かと思っておりますので、22 ページに屋上の図面などもございますが、プールサイド、こちらの上にはルーバーとって、日除けになるようなものですね、雨は通すけれども、日差しは遮るようなものでかなり広い範

囲を今回覆っております。また、プールサイドの地面といたしますか、そのところも熱くなり過ぎないように素材のものを使うといった形で暑さ対策の方はしっかりやっていきたいと考えております。

伊井委員 ありがとうございます。環境教育とかにも配慮したということも書いてありますし、子どもたちの希望のところ、また、地域の思いを十分に生かせるように今後ともご検討していただけたら大変幸いに存じます。よろしく願いいたします。

庶務課長 ほかはいかがでしょうか。

では對馬委員、お願いします。

對馬委員 今のお話のプールのところで、今、校舎にプールが必要かどうかを議論されていることもあるかと存じますが、今回はどのような議論があったのかということをお伺いしたいことと、もう一つ、校庭が人工芝と先ほどおっしゃっていたかと思うのですけれども、ちょうど先週、私、高円寺学園の運動会に行き、人工芝で、やはり大変いいと。水はけもいいし校長先生も大変使いやすいくおっしゃっていたのですが、ただ一つ、消防車を入れると芝がすぐくたびれてしまうので、消防車写生会ができなくて、そこに出せないのが非常に残念なので、来年は近隣に連れて行ってやるようにしようかなんていうお話を伺ったのですけれども、その辺を子どもたちにとってよい影響だけではなくて、もしかしたらマイナスになるかもしれない影響をきちんと教育活動の中でフォローしていけるような形で補っていただけるといいなと感じました。

学校整備課長 まずプールの必要性というところなのですが、現在も学習指導要領上は、水泳授業は必須になっておりますので、どこでやるかといったことになるかと思えます。現在、区でも検討はしておりますが、区内も幾つかやり方はございまして、例えば広がっているのは民間のプール、こちらを使うということですが、区内の民間プールで使えるところが、個別にも当たっているのですがなかなかないというのが現状でございます。

また、区立の温水プールですね、こちらもあるところではありますが、杉一小についてはなかなか距離、例えば杉十に行くだとか、距離的にもなかなか難しいところがあるかと思っています。

それから、近隣の学校同士でシェアをするという考え方も当然あるのですけれども、こちらについては学級数が双方合わせてある程度少なく

ないとなかなかシェアはできないのですね。そういったことも踏まえて今回杉一小については必要であろうということで設置をしてございます。

それから2点目が人工芝ですね。人工芝につきましては、委員からもございましたけれども、かなりけがも減ったりですとか、子どもたちも寝転がったり、かなり教育的にはいいといったこともお聞きしますが、やはり一長一短はあります。車のお話を頂きましたけれども、炊き出しをする時には養生だとか必要だよねということもございました。

杉一小に関しましてはそのあたり、震災救援所の方のご意見なども入れまして、ある程度コンクリートのたたきのようなところも一部作ったりという形で、全部人工芝ではなくそういったスペースを設けるなどの工夫もしているところがございますので、使い方を含めて今後学校とも調整をしっかりと進めていきたいと考えてございます。

庶務課長 ほかはいかがでしょうか。

前田委員 様々ご説明ありがとうございます。

1点。いろいろな校舎の配置案があったと思うのですが、今A案を採った時に、もちろん総合的に見てA案がよかったということだと思っておりますが、どうしてもここはちょっと難しかったというところとか何かあれば、A案を採ることでちょっと諦めたといいますか、そういうところがあるのであればちょっとお聞かせいただけたらと思います。

学校整備課長 A案は、諦めたというところではないのですが、特に東側の住宅地に近い側にグラウンドがきます。その音の問題ですとか、先ほど人工芝という形で、砂塵の害については軽減できるかなと思っておりますが、やはり周辺への影響というところは、これはどの案でもそうなのだと思います。より配慮が必要なプランにはなっているかなというところは考えております。

前田委員 分かりました。どうしても住宅地の中で、しかも移動するという、また、あまり想定していない今回の配置替えだと思いますので、周辺の方へのご理解というのをなお一層求めていかなければいけないところかと思っております。引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございます。

庶務課長 では、大川委員、お願いします。

大川委員 先ほど伊井委員から質問があった学級数の関係で、最大15学級と想定しているということで、10ページ、児童数・学級数の推移も

載っています。

それとの関係で、A街区というのですかね、中杉通りに一番近いところは今後どのように使っていくとかの計画がどんな感じでイメージされているのか、差し支えない範囲で分かれば。

というのも、例えばあそこに大きなマンションとか、複合施設としてマンションが建つと若いご家庭が増えて、その次に今度子どもたちが増えて。そうすると、過去を見ていただけでは分からない人口の変化というのもしこってくると思うのですよね。この計画全体を踏まえてこの阿佐ヶ谷の周辺がどのように人が増えていくのか、子どもが増えていくのか、または減っていくのか、そういった見通しがあれば教えてほしいと思います。

学校整備課長 ありがとうございます。15 学級というところですけども、当面につきましては 12 学級で収まるという推計自体はしてございます。ただ、先ほど申し上げたように、新築によって増えるというケースはございますので、余裕を持って 15 は作っていくという状況でございます。

お尋ねの A 街区の杉一小の跡地ですけども、こちらにつきましては大体区の持ち分は 3 割ぐらい、7 割につきましては地権者さんの持ち分になるといったところで、そちらとの調整を今しているところで、まちづくりの関係からも区民の方も参加で今、あさがやまちづくりセッションという枠組みで意見交換をして、区としての活用のイメージといったものも徐々に議論をしているところですが、具体化についてはこれからとなってございます。

ただ、議会等でも、タワマンになるのではないかというご意見を、その可能性はないのかというのもしるございますが、こちらにつきましては地権者さんとも合わせて、タワマンにするという考えは一切ないといったところは区としても確認できておりますので、それによって児童数が一気に増えるといったことは考えられないのかなと思っております。

大川委員 ありがとうございます。教育委員会としては、その全体的な計画にどうこうというよりも、学校の長い目で見た計画が左右されると、計画が狂うとか困るということもあろうかと思っておりますから、引き続き注視して意見を述べていくようにしていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

庶務課長 ほか、ご意見よろしいでしょうか。

それでは、ないようですので以上で報告事項1番についての質疑を終わらせていただきます。

続きまして報告事項2番「令和7年度体力等調査の結果について」につきまして済美教育センター指導主事からご説明申し上げます。

済美教育センター指導主事 私からは「令和7年度体力等調査の結果について」ご報告をいたします。資料をご覧ください。

1「体力等調査の概要」についてです。実施者、名称、目的、対象は資料記載のとおりです。調査内容は、体力・運動能力に関する調査と、生活・運動習慣等に関する調査で構成されており、令和7年5月から7月にかけて調査が実施されました。

次に、2「調査結果の概要」についてご報告いたします。まず、(1)「体力合計点」の東京都の平均値との比較についてです。杉並区児童生徒の平均値は東京都の平均値とほぼ同等であり、特に大きな差は見られませんでした。なお、小学校と中学校では得点換算方法が異なるため、中学校の数値は相対的に低くなっております。

続いて2ページ目(2)「体力合計点」の5年間の推移についてです。令和7年度の結果を令和3年度と比較すると、小学校6年生男女及び中学3年生女子においては下降傾向が見られました。しかし、令和6年度からは全体的に上昇傾向が見られ、特に中学3年生男子は令和3年度を上回る結果となりました。

また、(3)「体育・保健体育の授業で、上手に体を動かして運動ができるようになった実感」の4年間の推移では、中学3年生女子においては下降傾向が見られる一方、小学6年生男女及び中学3年生男子では上昇傾向が見られました。

次に、3の「課題及び今後の取組」についてです。質問項目「体育・保健体育の授業で、上手に体を動かして運動ができるようになった実感」と「体力合計点」には統計的に相関関係があることから、自らの学習の成果を実感することが「体力合計点」に影響を与える要因の一つとして考えられます。中学3年生女子の「保健体育授業における上達の実感」及び「体力合計点」の低下が続いていることが課題でございます。

今後の取組として、学校では、ICTの活用や運動が苦手な児童・生徒への支援など、個別最適な学びを充実させることで児童・生徒が体力の

高まりを実感できる授業改善を進めてまいります。

教育委員会としては、令和8年度の研究課題として指定したグループ研究において、個別最適な学び実現に向けた授業研究を進め、公開授業を通じて成果を広めるとともに、教員向けの研修を実施していきます。

また、中学3年生女子の「体力合計点」及び「授業での上達実感」、こちらの低下要因を分析し改善策を検討してまいります。

以上が令和7年度体力等調査の報告となります。以上です。

庶務課長 ただいまの説明につきましてご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

前田委員 ありがとうございます。ちょっと読み方を教えていただきたいのですが、1枚目の2番の「調査結果の概要」で、例えば中学1年生の男子と女子は、男女は同じ計算方法になるのですか。1年生の時は、男女で比べると女子の方が大分体力的な点数が高い、そういう見方で合っているのでしょうか。

済美教育センター統括指導主事（清水） 男子と女子では、得点の幅みたいなのが多少違うということになります。なので、単純に男子と女子で点数だけでは比較ができないになります。

前田委員 分かりました。ありがとうございます。

そう見ると、中学1年生の男子と中学2年生の男子はすごく伸びるのだなと思って、すごく気になってきたなという感じがあります。

あとは、2ページ目の推移のところかというと、やはり気になるのは（3）の中学3年生男女のうちの女子ですよね。体育の先生からすると、上手に体を動かして運動ができるようになったということが実感できるというのが、先生たちの一つの体育の授業の目標とした時に、そう思っているという人が半分もないという状況で、でも、これが全体的な傾向でこうですということであれば、これは何でなのだろうというのがすごく不思議なのと、先生としてこれを見た時に、どうしようと思うのかなというところが結構気になっています。

どんどん下がってきているのですが、40%を切ってしまったなというところかというと、そこら辺はなぜなのか。そして、目指している授業になってないということになるのであれば、大分考えないといけないのではないかという気がしています。やはり男女でいうと女子の方が低いというのは、そこにどういう原因が隠れているのかというのは、是非先

生たちとも会話をさせていただいて。

目の前の子どもたちがまずいるわけですから、この全体を見るというよりは、目の前の子どもたちがどう感じていて、どういうことができるかとよさそうなのかという対話ができるといいのかなと思いました。

このままでいるのは授業としてちょっと残念だなと思うので、そこも是非指導を含め検討していただければと思います。

済美教育センター統括指導主事（清水） 本当におっしゃるとおりでして、これは一体何が原因なのだろうということを私たちもいろいろ、ほかの項目を見たりですとか調べたのですけれども、これが原因だというのはまだ探れていない状況ですので、今年度ですとか、生徒たちの様子ですとかを聞いたりとかして、今後の取組の一番下にも書かせていただきましたが、今後もう少し要因の分析を続けていかなければいけないと思っております。それとプラスして、やはり授業改善にも取り組んでいけるよう研修を充実していきます。

前田委員 これは多分すごくいい機会だと思っております。さっきのと重複しますが、目の前にいる子どもたちが実感できるようになっているということを重ねていくことが大事だと思うので、この調査はこの調査でやりつつも、4月に始まったところから、どのように子どもたちとして実感できているのかとか、できていないのであれば何なのかというのは是非地道に取り組んでいただければなと思います。よろしくお願いします。

庶務課長 ほか、いかがでしょうか。

伊井委員 いろいろご検討いただいてありがとうございます。

いろいろなところで体育の授業とか拝見していても、子どもたちはタブレットとかを上手に使って、先生方もいろいろな教材というかツールを駆使しながら、体育の授業そのものは、私はすごく進んできているなと思うのです。子どもたち自身も自分たちで考えたダンスを録画して、それをみんなで見て次の動きにつなげたりとかもしているし、先生方もすごく上手にいろいろなものを使っていらっしゃるどころだし、前に進んでいると思うのですけれども、楽しむといった視点で、自分のことが例えばできるようになった、跳び箱でもダンスでも何でも、いい感じにできたとか、あと、チームワークで苦手な子を巻き込んでダンスがうまくいった時などの喜び、達成感を感じている場面を見たことがあります。

すけれども、中学3年の女子になるとなかなかそういった機会が少なくなるのかなと。1学期も部活のことでいろいろお話しさせていただいたこともあると思うのですが、かつては部活というところが様々なことの受け皿になっていたことは確かなのかなと思うのですが、それがなかなか思うようにいかないと、今後の展開を考える時に、部活だけではない、体を動かす機会の楽しさみたいなものを、もちろん学習指導要領があるのですけれども、授業であつたりほかの時間を上手に使ってみんな楽しく体を動かすものがあつてもいいのかなと思うのですね。

今、子どもたちは、私が子育てした頃に比べると公園で遊んでないのですよね、体を使って。本当に遊んでないのですよ。公園で集まっていると思って近づいていくと、こうスマホやゲームをしていたり、それが全て悪いとは言っていないのですね。背中合わせに楽しそうにやっている姿とかも別に、それはそれで自分たちが集って何かをつかんでいる、そういう時間でもあるので、全部否定することではないのですけれども、自然に体を動かすということができるような場所がなかなかないのも一つの悩みですし、そこもご検討いただきながら、学校にいる時間は、みんなが同じ時間に学校にいるので、体をこのように動かしたら楽しいよということを、体育の先生とかにも伝えていただけているとは思いますが、もう一工夫いただけるといいのかなと思います。

やっぺらっしやる姿をいろいろな学校でたくさん見ているので、すごくご尽力いただいていると思いますが、小学校はそれを割とやりやすい科目だったり、それから科目の内容だったりすると思うのですが、中学になるとまたちょっと違うところがあるので、幾つもの課題といういろいろな種目の中から、どんなお子さんでも参加できる形のものというのはいいなと思いました。

幾つか運動会を回らせていただいた中で、中学校の文化だと思っていた全員のリレーがあるではないですか。あれが小学校でも学級ごとに大分やるようになっていて、リレーの選手だけではなくてみんなで走るといふよさがすごく共有されてきているなと思っていて、遅い子も速い子も走るのが下手な子も、すごく工夫しながら自分たちのクラスの走りを作り上げていたのですね。そんな形の考え方もあるのかなと思ひまして、今後、ちょっと枠を広げて様々に体を動かしたり運動する楽しさだったり、それがまた心の健康につながっていく楽しさなんかもつかみ取って

いく時間になるといいなと思います。今後ともよろしく願いいたします。

学校支援課長 今のお話で、直接学校教育ではないのですが、学校が終わった放課後の時間の使い方というところで、今、部活動の地域移行、地域展開ということを進めておりますけれども、生徒に聞いたアンケートなどでも、子どもたち自身も体を動かして楽しむ環境は約 75%、四人に三人の生徒はそういう環境がもっと学校にあったらいいなということをお求めている状況もありますので、放課後の中学生の時間の過ごし方として、そういった機会も少し今後、体力向上に寄与できたらいいのかなと思って聞いておりました。以上です。

伊井委員 ありがとうございます。場所と時間含めてご検討いただけたらありがたいです。よろしく願いいたします。

庶務課長 ほか、いかがでしょうか。

大川委員 いろいろな学校でやっている研究授業、先生方がいろいろな授業を「こうやっていきましょう」と、やっていますよね。その中で基礎的な体力を研究したり、「授業をこうやったらいんじゃないの」というのは、例えば杉並区内とか、または全国でも、そういうことをやっていたらいい方をご存じかなというのを教えてください。

あと、例えば杉並区内でもものすごくいい学校というのもありそうな気がするのです。私も CS をやっていた頃にこういう体力調査とか学力調査があると CS にフィードバックされて、その中で「今、うちの学校はこうです」とか、それこそクラスレベルであるようなことも聞いていますけれども、そうすると、区内でとても基礎体力が優れている学校はどんなところがあるのか、そこを教育委員会としてほかの学校にフィードバックしていくような試みはされているかしらと思ったので、そのあたり、もしあれば教えてください。

済美教育センター統括指導主事 区内でも体育の推進校というのがございますし、東京都でも体力向上の指定校というものを指定しておりますので、その学校は広く授業公開をして皆さんに広めましょうという趣旨で行っておりますので、ございます。

また、杉並区ではグループ研修・研究というのをやっておりますので、その中に体育部もありますので、そこも中心になってやっておりますので、そういった取組をもっともっと、いい取組をやはり区内の先生方に広げ

ていければと思います。

大川委員 現場の先生方も一生懸命取り組んだりしていると思いますので、是非そういう例を広めていくような工夫をお願いしたいと思います。

庶務課長 ほか、いかがでしょうか。

對馬委員 毎年のことですが、少し中学3年生の女子が下降傾向にあるというところがやはり皆さんと同じで気になるところですけれども、中学時代の女の子は体に変化していく時期なので、自分の体の使い方が分からなくなる、今までと同じようにやっていて同じ高さが跳べないとか、そういう時期だと思いますので、そういうところも丁寧に。そのように思っている子と、あまりそう思っていない子が学級の中にはたくさんいると思いますので、そのあたりを丁寧に見ていただけたらいいのかなと。

もう一つ、先週でしたか、富士見丘小学校の研究発表会でキャリア教育を見せていただいた時に、指導してくださった先生が、これが将来の自分の生活の何に役に立つのかというところをちゃんと明確にしていく、それがキャリア教育だということをおっしゃっていたような気がするのですが、そうした時に、体育は意外とそこが難しいのかもしれないなど。

例えばボール投げとか、それが上手にできるにこしたことはないのだけれども、大人になったら基本的に物は投げないですよ。といった時に、これが例えばバレーボールで上手にトスができるとか、「実生活の中でトスすることとかなないじゃない」みたいに思っていた時に、どうやって落とし込むのだろうかということを考えました。私はそんなに体育は得意だったほうではないものですから、私自身そう考えていて、いつも「何でこれができるようにならなければいけないのかな」と思っていたりもしたものですから。

小中学校は基礎体力づくりだとは思いますが、実際に大人になってからみんなでやるスポーツ、例えばランニングをするとか、大人の方でしたらゴルフをするとかヨガをするとか、あまり授業の中に出てこないスポーツの方がむしろ多くやっていたりとかする。そうした時に、なぜこれが今の自分にとってできるようになる必要があるのだろうかという、その落とし込みなども丁寧にやっていただけたらもう少しやる気が出るようになっていくのかなという感じがしました。

特に部活の方のアンケートを見せていただいても、すごくその種目を極めるといよりも楽しみたいとか、ちょっと緩めに体を動かしたいという子が最近が多いような結果を見せていただいているので、そうした時に、今求められているものは、指導要領で求められているものと子どもが求めているものはもしかしたら違うかもしれないなというところの中で、どこに先生方が目当てを持ってやっていくのだろうか。そこが、中学生自身が感じていることとの差に、もしかしたらなっていることもあるのかなとちょっと思ったりしました。感想です。

庶務課長 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

教育長 今、ご指摘を様々頂いた中3女子については、担当の指導主事の方でかなり詳しくいろいろ分析をしてくれて、何でこんな風になってしまったのだろうねと。

例えば学力と相関があるのかとか、塾にいったい行っていて勉強ができる学校と、そうでないところはどうかとか、あるいは、運動部活動の加入率が高いところは体力の調査がよいのではとかという想定で、カイ二乗検定をかけて相関関係を調べてもらったのです。やはりそれでも全く相関がなかったのですね。

また、これは杉並区特有かというのと、恐らくこれは東京都、全国的にこういう傾向があるが何でだろうと。答えは出なかったのですが、その時にやはり指導主事の方から、実は中学校は男女共習になったのですね、体育が。今までは男女別だったのが、男の子と女の子が一緒に体育をやるようになって、発達段階、女の子が全力を出しきれなかったりだとか、男の子の前で必死に頑張るようなことを嫌がったりだとか。もしかしたらそういうことも影響しているのではないとか、いろいろ考えてみたところでは。

いずれにしても、「じゃあ、こうすれば」「こういう対応をすれば、すぐに体力が上がる」という結果はないのですが、コロナ禍以降、球技大会だとかマラソン大会だとかいろいろな行事、運動する環境が減ってきたりしていることもあるので、様々な検討を加えながら、杉並区として女子の体力向上、どうにかできるような施策を考えていきたいなと考えているところでございます。

前田委員 ありがとうございます。何かいろいろなそういう背景は、年齢的な背景もありそうだと思います。ただ、体育は、私はすぐ頭で全

部考えてしまうのですが、今自分があるこの体をどのように使うのか、あと、例えば何か目指すものがあつた時に、結局この体でしか何事もできないので、じゃあ、どこまで目指してやるのかとか。

あと、子どもと話すとき、バスケットボールとか初めてやったのに割とうまくなってしまったりとかして、大人とは違うすごい伸びがあるなと思った中で、体を使って何かを練習してうまくなっていくという機会は、プロになるとかそういうことは関係なくすごく大事だし、頭を使う、家でも SNS とか見たりスマホを見たりとかという機会や時間が多い中で、この体を動かすという時間がそれだけ少なくなっている今だからこそ、体育の時間はすごく大事だなと思うので、体を動かす爽快感もそうですし、自分の体をどう使うか、投げる時、手を上げるとかってやはりやってみないと分からないですよ。

何かそういうことも含めて、何のためにというと、自分の体を知るという意味でもすごく大事な機会だなと思っております。なので、この体で生きていくという意味で、もう少しいい時間になるといいなと、とにかく願うばかりです。中学3年生、多感な時期ではありますけど、何かそういういい時間になるといいなと思って、すみません、私も感想でした。ありがとうございます。

庶務課長 ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で報告事項2番についての質疑を終わります。

報告事項は以上でございます。

教育長 それでは、教育委員提案議題に移りたいと思います。

本日のテーマは「教育 DX について」になります。では、配布資料について所管課の方から簡単にご説明をお願いいたします。

学校 ICT 担当課長 教育委員提案議題というところで、本日は「教育 DX について」というお題を頂きまして、そちらに対してちょっと議論を進めていければなと思っております。配布させていただいたのは4種類の資料になりまして、まず、教育委員提案議題「教育 DX について」というものと、7月に実施しました活用力調査の結果、9月に実施しました校長・副校長向けの研修実施後の事後アンケート、それに基づく参考資料としましてその研修で使った資料の方をお配りさせていただいております。本日は、大きくこの「教育 DX について」という資料と調査結果を基にご説明をさせていただければと思います。

では、続けてさせていただきます。「教育DXについて」というお題を頂きましたけれども、教育DXは本当に幅広いなところがございますので、テーマを今回決めてやっていきたいなと考えました。杉並区の現状を把握していただきまして、教育DXの必要性だったり可能性について理解を深めるというテーマに絞ってやっていきたいと考えております。前段、私の方から杉並区の現状についてご紹介させていただきまして、その後、議論等で教育DXの必要性・可能性について活発な意見交換ができるといいかなと考えております。

では早速ですが、教育DXというところで、文部科学省の定義は「教育分野におけるデジタル技術を活用した構造的変革」と位置づけておりまして、教育DXと同じくICT教育という名前、よく聞くとおっしゃるのですが、ICT教育と教育DXは少し目的や範囲などが違う、そこに記載のとおりなのですが、そのものを変革していくよという教育DXがあるというところをまず念頭にいただければと思います。

では、なぜ必要なのかといったところは皆さんもご理解いただいているところかもしれませんが、教育委員会側としては、事務作業が多いからであったりとか施策をよくするため。一方、学校側では、子どもに合った学びであるとか未来に必要な力を育てるために必要だよねというところになります。

続いて、どんなことができるのかといったところで、これも、いわゆるデータを管理したりであるとか分析したり、それに基づいて計画をしたりというところで学校側は一人ひとりに合った学びの提供であったり、教員自身の業務の効率化を狙っているのではないかとということが、文部科学省から言われているところのまとめになります。

では、これから杉並区では今どういう状況なのかといったところをお伝えしていくのですが、かねてからご案内させていただいたとおり、今年度9月からシステムが変わりまして、校務系と教務系のネットワークの統合及びフルクラウド化というのを実現しました。機器ですが、教職員端末であったり児童・生徒用タブレット端末、複合機、電子黒板などなど、学校ICT係から整備しているものというのがご覧のとおりになります。

では、その機器たちを使ってどういうシステムを利用しているのかというところになりますが、今回から個人ごとに割り当てたメールであっ

たり、Office365、TeamsなどのMicrosoft製品、またSharePoint Online という共有の記憶領域、フォルダみたいなものをイメージしていただければと思いますが、そういったところであるとか、校務支援システム、サービス管理・旅費管理システム、保護者連絡システム、あとはロイノート、ミライシードなどの学習系アプリというようなものが取りそろっているというのが今の杉並区の基盤の状況でございます。

続きまして参考となりましたが、ここから資料を替えさせていただきます。7月にそのシステムの入替え前の杉並区の活用状況はどうなのだろうというところで、学校教職員に向けてアンケートを取りました。その結果をこの場で紹介させていただきながら状況をつかんでいただければと思います。

では資料は別紙1の方に替わります。調査結果ですが、まず調査目的としては記載のとおりで、対象の先生方による回答者数でその次に回答状況というものを入れさせていただいたのですが、全校のうち約7割の先生方に回答いただきまして、そのほかに役職別だったり業務歴別で統計の方を取っているという状況でございます。

アンケートの中で、製品や機器に関して活用状況はどういう感じですかとお伺いしたところでいろいろな製品・機器の活用状況を聞いたのですが、今回、特に気になったところとして四つの機能・製品というのをピックアップしてお伝えさせていただきます。

まず Teams ですが、Teams はオンライン会議やグループチャット、ファイル交換などが行えるコミュニケーションツールになっております。傾向としましては、十分に機能を理解できているというオレンジのところは9%にとどまって、ある程度理解できるよというところを含めると約半数になります。こういった傾向から今後は、特に Teams を核としたコミュニケーションを行っていくことが想定されるので、一部の得意な先生だけではなくて全教職員が利用できるような支援ができたらいいかないと考えております。

次に Forms です。Forms はアンケートのツールになるのですがけれども、こちらもある程度利用できるところが半数には達してなくて、しかも全般的に操作が難しいという先生も15%はいたというところになります。今後は、ペーパーレス化もありますので、アンケートや提出物を電子化していくために有用なソフトウェアであることからこちらも

Teams と同様、全教職員がある程度機能が理解できるような取組をしていく必要があるのかなと捉えました。

3 点目です。こちらは SharePoint の活用状況になります。先ほどお伝えしましたクラウド上のストレージ（記憶領域）であるとともに、ポータルサイト、情報集約ページの作成などなど、いろいろ取りそろっているソフトウェアになるのですけれども、こちらの機能に関してはある程度利用できるという回答いただいたのが 30% に達しなくて、しかも、操作することが難しいというのが約 40% という結果になりました。今後ですが、学校内であるとか杉並区教育委員会全体の情報共有や情報発信を強化していく上では必要なソフトウェアになっていきますので、まずは全教職員が基礎的な知識というのを習得できて、なおかつ、得意な先生には発展的な操作研修などをしていく必要があるのではないかなと捉えました。

最後に、電子黒板の活用状況になります。先ほどからの 3 点とは違いまして、電子黒板は令和 6 年度から本格的な導入が始まったものになりました。6 割がある程度理解できているとなっておりますが、実はこのグラフには専科教諭や養護教諭の先生方も含まれてしまっていて、そういった使わないという先生を除くと、ある程度理解できるという先生が 8 割に増えると捉えていただければと思います。

その結果、今後は普通教室で活用している先生には他校の活用例などを共有できる仕組みを作ったりであるとか、今後予定をしている専科教室を利用する先生向けには基礎研修というものを実施していこうと考えております。

アンケートには自由意見も求めたのですけれども、この 1 年間で実施した DX は何ですかという問いでした。行っていないと回答した先生方もいらっしゃったのですが、中には、保護者連絡システムの tetoru や Forms を併用して保護者への日程調査を行ったであるとか、Teams でオンラインの会議を開催しまして、出張等の回数を減らしたというような、本当に具体的にご紹介いただいた先生方もいらっしゃいました。

一方で、この資料では青字で書いてあるのですけれども、確認すべき情報が過多で分散していて、どこを確認したらいいのかといったところで、業務改善にはまだ不十分だというご意見も頂いたというのが正直なところでございます。

続いて、選択性で DX 推進に必要なものは何だと思えますかという問いですが、一番高いのはサポート人材の充実というところで、やはり助けてほしいという声が聞こえてきたのかなと捉えております。でも、その一方で、活用教育の研修の充実であったり操作研修の充実というところでいうと、やはり自分のスキルの向上というところで前向きに捉えていただいている先生方も数多くいらっしゃるのではないかと捉えております。

自由意見の最後ですが、教育委員会への意見というところで、ここは、先ほどもお伝えしたとおり、システムの入替え前のお話になりますので、また前後を比較していきたいと思うのですが、この当時は、やはりスペックの高い機器を求める声が数多くございました。

以上のことを踏まえまして、今後の行動計画、ICTとしてこのようにやっていきたいなというところなのですが、今まで出てきたとおり研修の充実ですね。Microsoft 製品であるとか、そういったところの研修を進めていく必要があるよというところと、あとはポータルサイト、情報集約ページの企画であったり指定ですね、知識の共有を区内全体でできる環境というのを整えていけないかなというところを進めていければと思っております。

最後、再構築後の実証というところで、システムを入れ替えてただそれだけで終わりではなくて、そこでしっかり、どのような状況になったかというのを効果検証していこうというところで、今後の行動計画を記させていただきます。

今回、付録として各機能を載せておりますので、またお時間がある時に見ていただければと思っております。

資料は戻りまして、もう一つ参考で ICT 係として取り組んだものとしては、校長・副校長向けに意識醸成を目的に研修を行わせていただきました。そういったところで、先ほどお伝えしたとおり事後アンケートであるとか、その研修の資料を参考資料として提示させていただいております。今日は時間の関係で触れはしませんが、またお時間がある時に見ていただければと思います。

「最後に」のところ、先ほども今後の行動計画を出させていただきました。再構築前後の比較として活用力の調査であるとか、あらゆるコンテンツを検討して、児童・生徒だけではなく先生方にとっても個別

最適な研修の実現ができるような仕組みづくりができないかなというところで次年度研修企画の策定だったり、より円滑なコミュニケーションの実現ということでポータルサイトの構築というのを目標に掲げて取り組んでいきたいなと考えております。

以上が私から説明させていただいたかった杉並区の今の現状、ICT係から見た現状というところでございます。これからはディスカッションというか、ご意見を頂ければと思います。

教育長 ありがとうございます。

ここから自由に議論する時間を設けたいと思いますが、20分程度、3時25分ぐらいまでの時間設定でいきたいと思います。単純なご質問等々、またご意見があれば活発にご議論いただければと思います。

今、担当は触れませんでしたけれども、このDXのチェックリストで、昔はICT教育先進区であった杉並区が、今は非常に状況がよろしくないということもありましたので、そのことも踏まえて厳しくご意見を頂ければと思います。よろしくお願ひします。

對馬委員 丁寧な資料を作っていただきありがとうございます。さすがICT担当、すごく見やすくてきれいな資料だなと感心しました。

多分操作が分からなくて不安だというお声がたくさん、やはり多いみたいなので、そこはやはり慣れていく、使っていくということで解消されていくのではないかなと希望的にですけど思っています。

私自身を考えて、自分を振り返ってもやはりいろいろなものを今はデータで頂くようになると、多分紙の時よりスルーする回数が増えている気がするのです。深く見ないとか、来ているかどうかちゃんとチェックしきれていないとか、そういうことで情報が逆に届きにくくなっていることもあるのではないかと思う部分もあるので、その辺はうまく使いながらどうきちっと届くようにしていくのかということがもしかしたら課題なのかなと思います。

実は先日、済美教育センターで学校司書を対象に講習・研修をやらせていただいたのですが、その時にもこういう生成AIについてのガイドラインが出ているのを知っていますかというのと、結構みんなポカんと、この辺にクエスチョンがついている人が多くて。多分学校には届いているのだけれども、それをちゃんと見ていないとか、届いていることを知らなかったとか、そういう人がいっぱいいたのかなという感じが

しました。

その時に、「生成 AI、使ったことありますか」「日常的に使っていますか」と聞いたら、手を挙げてくれたのが 1 割ぐらいという感じなので、そういうのが現状なのかなと。こういう時にこのように使えますよというお話をしたら、じゃあ使ってみようかなと。主題のほかのことなので最後の 5 分ぐらいしかその話はしていないのですが、やはりちょっときっかけを作ると使ってみようかなという気にはなってくれるみたいなので、少しずつ使ってみて、自分自身がよさとか課題とかを感じるということが、今はまだその段階の人がたくさんいるのかなという感じがしましたけれども、やはり有効に使えるものはたくさんあると思うので、やはり是非有効に使って、子どもたちの学びの充実もそうだし、自分の働き方を楽にすることもそうだし、使い方に関しては是非たくさん教えていただいて使えるようになってほしいです。そのためには、教育委員会としては、それを教えてくれる人、サポートしてくれる人材はきちんと手当ををしていかなければいけないかなと感じました。

学校 ICT 担当課長 ありがとうございます。まさに先ほどお伝えさせていただいたところの、この青字の部分、確認すべき情報が複数の場所に散らばっていて、どこに見に行ってもいいかわからない、情報というのは、プッシュ型で伝えるものとプル型でやるものというところがあると思うのですけれども、そこの使い分けというのも一つ一つ情報を見極めながら、これはプッシュでちゃんと伝えたほうがいいのか、できる先生はプル型でどんどん引き出していってくださいとするのかという設計も念頭に入れて設計していければなと考えております。

私、個人的にも触ってほしい、まずは触ってほしい。一朝一夕でできるものではないと思うので、ハードルをどんどん下げながら、簡単などころから一つずつ登っていただけるといいなというところは感じておりますので、そういったアクションをできるといいなと思っています。

對馬委員 ありがとうございます。先日ちょっと JAL の Youtube の中で、生成 AI を作っているというのをやっけていまして、社内の人しか見ることができないのだけど、先輩に聞くまでもないような質問をそこにすると答えが返ってくる。まだまだ積み上げだから全部は返ってこないけど。何かそういうのが簡単にできるように作って、作る人は大変だと思うのですが、教育委員会の中とか先生たちの困ったこととかを、そこに聞け

ばいいとか、そんなのができてくれると使いやすくなるのかなと思ったりもします。

学校 ICT 担当課長 ありがとうございます。生成 AI に関しても、あと 1、2 年後にはまた全然がらっと変わっている世界に、もしかしたらなっているかもしれないというところで、情報をキャッチしつつ、そういった情報を読み込ませて、本当にすぐ聞けるような、そういった存在。相棒ではないですけども、そういった存在になるような世界観も今後は見据えて進めていく必要があるのかなと思っております。ありがとうございます。

教育長 ほかには。では大川委員。

大川委員 さっき頂いていた資料の中の 10 ページと 11 ページ。10 ページを見ると、まず、スペックの高いタブレットに関する要望が多かったというのは、それは当然だと思うのですが、今後の置き換えの計画みたいなものはどれぐらいであるのかしら。例えば 3 年後にはまた更新しますよ、5 年後には更新しますよというロードマップはどんな感じになっているのか、直接 DX、ICT とは関係ないかもしれないですけども、教えてほしいです。

あと、その次のページに「青テプラの端末の入れ替え」と一番下に書いてあるのですが、これはまるっきり分からないので、何ですかと。

あとは感想というか、先ほど對馬さんがおっしゃっていただいたように、AI とか、私たち弁護士業界でも活用している人としていない人の差はものすごくあって、私たちも生の事柄を扱うからどこまでこれやっていたいのだろうというのは結構ハラハラドキドキものなのですね。もうやっている方は、今までの裁判の記録をどかっと入れて、ローカルなやつに入れるのですね。そうすると、それを読んで、あと、依頼者との間で打合せしたやつを文字起こしして、それをどかっと入れる。そして「これに基づく書面作って」と言うと、5 分 10 分でポーンと出てきて、新人のアソシエイトを雇うよりも課金したほうがいいねぐらいの。もちろん手直しは必要ですが。

あと、行政を相手にしている弁護士さんなんかは、審決の結果というのが必ず出るのでよね、行政はこういう裁定をしましたというのが。ホームページなりで公開されている情報だともものすごく AI にはなじみやすくて、AI にネット上のそういうオープンになっている、例えば杉

並区の情報公開の記録をまずフォローしてこいと。そして、「杉並区ではどういう判断をする傾向にあるのかをA4の2ページでまとめて」と言うと結構すぐと出てきます。あとは裏を取って使う。

もう少し分かりやすいものだと、先ほどおっしゃったように、事務所の運営マニュアルをポンと入れると、アルバイトさんが来ても、例えば、「裁判所に文書を出すのにどうしたらいいのでしょうか」というのを言葉で質問すれば、これこれこうしなさいというのが出てきて業務の標準化が図れるよと。つい先月、私たちの内部でも研修をやって実例を教わってきたみたいなき感じなところですよ。

ですので、教育委員会の中でもそういう生成AIをどんどん活用していくように、もっともっと工夫を重ねていってほしいと思いました。

すみません、質問、最初の二つ、お願いします。

学校ICT担当課長 ありがとうございます。

まず、経年劣化がありまして、やはり充電がすぐ切れたりであるとか、そういったところも実は背景にあってこういう要望が出てきたのかなというところも推測の一つとしてあります。今回の入れ替えた端末に関しては5年後のリースになっておりますので、5年後の令和12年というところで入れ替えのロードマップという形にはなっております。

続いて2点目の青テプラというのは、こちらは児童・生徒用タブレットで、年度ごとにタブレット更新を何台かして、今年度も1万1千台超やったのですけれども、どの年度に入れたのかというところで、毎年度テプラの色を替えて判断しておりまして、今一番古いのが青テプラというところで、そちらの入れ替えをしていくというところで書かせていただいたものです。すみません、分かりづらくて申し訳ありませんでした。

大川委員 ありがとうございます。機器の更新、5年だと今の感覚からするとちょっと長いかなと思いますよね。OSも多分それぐらいで入れ替わってしまっていて、サポートも切れてしまいますし。予算を伴うことですけれども、もう少し頑張って新しいのについていけるようにしたいと思います。

教育長 7月の段階の旧のパソコンと、今この9月に入ったものでどのぐらい性能が上がっていいものなのかという説明をちょっとしてもらえると。

学校 ICT 係主査 単純なスペックというところとかなり数字的な計算が必要になりますので難しいのですが、メインメモリといわれている一時的な記憶をする領域については、授業用のパソコンが4ギガバイト、校務用のパソコンが8ギガバイトというのが旧パソコンだったのですが、こちらは16ギガバイトに増強しております。

また、バッテリーのもちにつきましても、授業用が今まで10時間ぐらいのもちでしたし、あとは、校務用のパソコンに至っては普通の、今までの、従来型の端末でしたのもって2時間3時間というところだったのですが、今回30時間もつような端末に変更しております。

また、我々区役所の端末についても同様の端末更新が行われたのですが、学校の特性を踏まえまして、タッチパネル機能ですとか、あとはペンの搭載もしております。またもう1点、軽さについても、今までは大体1キロ以上、校務パソコンについては2キロぐらいの重さがあったのですが、今回バッテリーを増強した上で1キロ以下という重さを実現しております。かなりスペックについては上がっていると認識しております。

教育長 ありがとうございます。これはかなりいいものが入ったという理解でいいですね。

伊井委員、どうぞ。

伊井委員 まず、せっかく9月に新しいものが入って、まだ慣れていない状況ではあるかもしれませんが、学校で扱っている方々からの感想みたいなものを1個伺いたいというのと、それから、自分がやっていて聞きたい時に教えてくださる方がいらっしゃるというのが、上手にAIとかも使えるようになるというのかなと思うのですが、そこにいくまでの間はやはり人に教えていただけたらいいのかなと思うので、そのあたりはもう本当にその希望がありましたよね、アンケートの中にも。そのあたりも含めて増強を考えていただけたらいいのかなと。

あと、聞きたい時に聞きたいことというのを考えますと、これは子どもたちの授業の話ですけど、様々な教科の中で、ここで使うといいよとか、こんな例がありますよというのは済美教育センターでもやっていらっしゃると思うのですが、中学校も小学校もそうなのですから、教科の中で効果的に使うあたりも整理して先生方にお示しいただけると、ちょっと使ってみようかなという感じになるのかなと思いましたので、

今後よろしく申し上げます。

本当に資料、分かりやすくありがとうございました。

学校ICT担当課長 ありがとうございます。先生方からのお声に関しては、先日も少し、この入れ替えに関しては課題、トラブルというのも発生しましたというご報告をさせていただいたのですけれども、やはりご迷惑というか、混乱を招いたのも事実かなというところで、そこは理解をしているところでございます。

その中で、現在もネットワークにつながりづらいつらいつらというのが一時的に発生したりであるとか、そういった状態に関しても課題認識はしておりまして、業者の方とやり取りをさせていただいています。ただ一方で、本当に先ほどの話にあったとおりのスペックはやはり高くなったし充電の持ちもよくなったので、「いや、本当に替えてくれてよかったよ」という声も頂いたりしています。

例えばその中でチャットであったりとか、オンライン会議であるとか、そういったところも徐々にですけれども浸透してきているように個人的には感じておりまして、本当に駆使しながら先生方、対応していただいているのかなという印象を受けております。

あと、授業でというところであるとか、先ほどからもあるように、どのように使うのかといったところは、これはできるかどうかというところはまだ発展段階だと思うのですが、個人的には学校内、やはり身近な人の事例の方がすごくイメージしやすいというものもあると思うので、そういったところの文化みたいなものも作っていけるとすごくすてきな世界が広がるのではないかなとは感じています。

済美教育センター所長 今 ICT 担当課長がおっしゃってくださったことは本当にそのとおりでいいと思います。これまでもやはり、「ちょっとこのように授業でやってみただけでこうだったよ」というのが職員室の中で話題で広がっていくと、本当に瞬く間に広がっていくのですね。ですので、センターでもそういう研修をして持ち帰った人が試してみて、そのように横展開してくれることを期待していろいろ行っていますし、あと幾つもの学校が研究校として授業を公開してくれているので、そんなところにも期待をしているところです。

これまでの話題の中でもたくさん出てきていますが、とにかく使ってみないことにはというところなのですが、陥りやすいのは、闇雲に使う

というところですか。この授業は何を教えるのかとか、何を身につけてもらうのが狙いなのか、というところを外してやってしまうと、本当に授業として悲惨なことになっていってしまう。これまでの、一斉授業のような形から個別最適な学びという、個に応じた学びの中で、今日の授業の狙いを達成していくために一人ひとりにどう使わせていくか。

さっきのアンケートを見ていて、教員の経験年数が少ない人が随分杉並は多いのだなと思って改めて見ていたのですが、そういう中で、そういう教員たちにも理解をしてもらいながら使っていてもらって、慣れてしまえば横展開も早いと思うので、そこに期待をしているところです。私たちも支援していきます。以上です。

伊井委員 今、本当におっしゃっていただいたように、まさにその世界が広がっていくといいなと。

先日、富士見丘小学校の研究発表でも惜しみなく資料を出していらしたじゃないですか。それを学校ごとでもそうですし、職員室の中でもそうですし、共有して子どもたちの授業と学び、個別最適というところは、先生方もどのように伴走していくのかというところはなかなか難しいところもあり、経験も時間を重ねていかななくてはならないと思いますけれども、そのあたりも支援していただきながら今後の展開につなげていていただけたらいいなと思います。よろしく願いいたします。

教育長 前田委員、どうぞ。

前田委員 新しいことをやることのハードルと、それをやれば楽になるというその、やれば楽になるのですが、多分初めてやる時のハードルがあるかなと思って。

あと、そういえば私が昨日書いた個人面談の連絡も紙だったなとか思いながら、そういうところなのだなと思いながら、まだまだちょっと改善点はあるなと思いました。

ちょっと聞きたかったのは、今 SharePoint を使っていて、皆さんそこにデータを入れているのですか。入れると Copilot で情報を引き出せるのかなと思ったのですが、先生たちはいろいろな文書を作っているじゃないですか。あれはフォルダに入れているのですか。

学校 ICT 課長 はい。

前田委員 AI はデータがどれぐらいあるかが大事で、さっきもあったように、インターネットのデータはインターネットで ChatGPT を使って

もいいのですが、今回大事なのは組織内の情報なのですよね。例えば今回 CEDAR ができたじゃないですか。いろいろな情報が集まってくるじゃないですか。対応記録もたくさん集まる中で、私も最近キートーンの中にたくさん集まった情報から「何々君の先月の活動について 150 字でまとめてください」と言うとパッと出てくるわけです。

例えば「今月の活動で国語、算数、理科、社会は何時間ありましたか」と言うと、全部出してくれるのですね。それがあると、自分で見ることもできますけど、たまっていればそういうことができるわけで、そういう活用の方法が見えると、もう少し先生方も取り組みやすいのかなと。

多分皆さんも今、たくさん資料を作っているんじゃないですか。これは、皆さんは SharePoint にまとめているのですか。

学校 ICT 担当課長 区役所は SharePoint ではないです。

前田委員 使っていないのですね。皆さんはどうなっているのですか。

皆さんは AI が使えない状況なのですか。

学校 ICT 担当課長 AI は使えます。Teams はあるので、同じく Copilot は使えています。

前田委員 なるほど、できるということですね。

なので、例えば今日の資料なんかも、去年のものを見て、この傾向がどうですというのを多分皆さん、一生懸命文章を作っていると思うのですが、これが出せるわけなので、是非是非使い方を事務局の皆さんもやってほしいなというのが、お願いしたいところです。

あとは、そこも含めてやはりロードマップを作ったほうがいいのではないかと思います。例えば事務局も今ある資料はちゃんと共有フォルダに入っていますと。何か資料を作る時に AI を使って文章を作ることができるとか、幾つかのレベルがあって、それを皆さんが 1 個ずつ登っていけるような、レベルの階段があるといいのかもしれないですよね。

階段があり、5 年後はレベル 2 までとか、何かそんなのが事務局も学校側も作れると、何かやってみようかなとなるかもしれないなくて、何かそういうところを私も一緒に考えますので、是非是非やっていって、ちょっと見える化していけると。

いろいろな情報があるけど何をしたいか分からないとなってしまうがちだと思うので、一旦ここまで登ろうよ、5 合目がここですみたいなのが出せるといいのかなと思うので、学校現場もそうですけど、事務局

の皆さんも是非活用してみてくださいという意見です。

学校 I C T 担当課長 ありがとうございます。最初におっしゃっていただいた産みの苦しみたいなところは必ずあるのかなとは思いつつも、どのように派生させていくのかといったところで、正直言いますと、私も使いこなせているかといったら全くそうではなくて、私も勉強中にはなります。ただ、先ほどお伝えしたように、身近な人が言うことで「ああ、そんなことができるんだ」の身近な人になりたいなと考えております。

もう一つ、ロードマップもありがとうございます。ちょっと考えていきたいと思っています。ロードマップと同時に、いわゆる目標値ですかね、あまり数値で測るのがなかなか難しいのですけれども、そういった目標を掲げて、いつまでにそこに行くのかみたいなところを、まず大ざっぱな絵を描いて、そこで何段階かあると思うので、そういったことができないかというのを、いろいろな工夫をしながら進めていければと思っています。

前田委員 思い出しました。教育界はループリックが好きですよ。あれを作しましょう。レベルがこうあって、自分のレベルは今1ですと。あれは自己評価をするのですよね。今は1ですが2に向けて、こういうことをやると2に行けるよみたい。皆さんが自分で自分を振り返りながら1個ずつ上がっていきるといいのかなと思ったので、作しましょう。

学校 I C T 担当課長 はい。

教育長 ほか、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。今日は松ノ木小の校長先生が傍聴でいらしていますけれども、松ノ木小は区内でもスクール DX が非常に進んだ先進的な取組をしている学校で、個別最適化された授業が一番進んでいる。そういう学校だからこそ逆に校務 DX も進んでいて、働き方改革も合わせて進んでいるといった好事例なので、こういった学校が今後増えていってくれるといいなと思っています。

それから、最後に前田委員がおっしゃっていましたが、冒頭申し上げた校務 DX のチェックリストで、学校設置者である教育委員会事務局も23 区の中では非常に悲しい結果なわけで、今ここにいる部課長の皆さん、今、改めてそれぞれの部・課で、ご自身のところの DX がどのぐらい進んでいるのか、前田委員のご指摘もありましたけれども、もう一度

しっかりと見て、学校とともに我々もしっかりと業務の効率化、改善を目指して頑張っていきたいなと思います。

それでは、これで終わりにしたいと思います。今年度から始めた教育委員会の提案議題でございますが、今、試行実施として予定していた五つのテーマが本日で完了いたしました。一旦振り返りを行った上で今後のスケジュールやテーマなどを検討して、改めてまたご連絡していきたいと思います。

それでは、以上で本日予定しておりました日程は全て終了いたしました。庶務課長、連絡事項がございましたらどうぞ。

庶務課長 次回の教育委員会定例会ですが、議会のスケジュールの関係から、日程を変更させていただきまして、11月28日金曜日、午後2時からを予定してございます。どうぞよろしく願いいたします。以上でございます。

教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。